

## 平成22年度第5回経営協議会 議事要旨

**日時** 平成23年1月31日（月）14時00分～15時12分  
**場所** 事務棟第二会議室  
**出席者** 山本学長，和田理事，大矢理事，中村理事，奥田副学長，片桐委員  
井上委員，鎌田委員，齊藤委員，榊原委員  
※齊藤委員については，航空機の遅延（JAL便の整備不良による欠航のため）により，報告事項2から本会議に出席した。  
**欠席者** 作田委員  
**陪席者** 池田監事，土橋監事

議事に先立ち，山本学長から，本学前学長 秋山 義昭 氏が去る1月10日（月）に亡くなられた旨，報告がなされ，黙祷がなされた。

続いて，前回（平成22年11月15日）開催の平成22年度第4回経営協議会の議事要旨の確認が行われた。

### 審 議 事 項

#### 1. 平成22年度学内補正予算〔第二次〕（案）について

山本学長から，平成22年度に喫緊に対応しなければならない事業の遂行，教育研究環境及び管理運営施設の改善を図るために，第二次の学内補正予算を組むことについて，審議願いたい旨，提案がなされた。

次に，平成22年度学内補正予算（案）〔第二次〕の内容について，審議資料1に基づき，事務局（財務課長）から説明がなされた。

続いて，審議が行われ，原案どおり承認された。

承認後，山本学長から，本件については，本日開催の役員会に附議する旨，説明がなされた。

#### 2. 平成23年度予算編成方針（案）について

山本学長から，平成23年度予算編成方針（案）を作成したので，審議願うものであるが，審議に先立ち，本学の平成23年度予算内示について，説明したい旨，発言がなされた。

次に，本学の平成23年度予算内示について，審議資料2-2及び2-3に基づき，事務局（財務課長）から説明がなされた。

説明後，山本学長から，平成23年度予算については，政府の財政戦略などにより厳しい予算措置が見込まれていたが，1%の削減はあったものの，授業料免除枠の拡大，学生支援経費の拡大，新規プロジェクトの採択などにより，総額としては増額という結果となり，平成24年度以降については，不透明かつ厳しい状況が予想されるが，創立百周年となる平成23年度については，運営に支障をきたすことは無い見込である旨，説明がなされた。

次に，平成23年度予算編成方針（案）について，審議資料2-1に基づき，事務局（財務課長）から説明がなされた。

続いて、審議が行われ、原案どおり承認された。

承認後、山本学長から、本件については、本日開催の役員会に附議する旨、説明がなされた。

なお、本予算編成方針について、役員会にて承認された後、当初予算の編成作業を行い、次回の本会議で、平成23年度当初予算（案）を審議する予定である旨、補足説明がなされた。

## 報 告 事 項

### 1. 第1期中期目標期間における教育・研究に関する評価結果（案）について

山本学長から、大学評価・学位授与機構から、第1期中期目標期間における教育・研究に関する評価結果の原案が通知された旨、報告がなされた。

詳細については、報告資料1に基づき、奥田副学長から報告がなされた。

#### 【奥田副学長説明要旨】

・第1期中期目標期間における教育・研究に係る評価については、大学評価・学位授与機構から、「達成状況」及び「教育及び研究に関する現況分析」の2つの観点から評価されることとなっており、このうち、暫定評価から評価が変更された部分について報告するものである。

・「達成状況」に関しては、暫定評価において【大学院間の単位互換】、【国際開発協力コンサルティング】の2項目が「不十分」であり、改善を要する点と評価されていた。今回の評価においては、2項目とも平成20、21年度の2年間で顕著な変化が認められるとされ、「おおむね良好」と評価が変更された。

・また、「教育に関する現況分析」に関しては、現代商学専攻の進路・就職の状況が「期待される水準を下回る」と評価されていたが、平成20、21年度の就職及び進学実績が認められ、「期待される水準にある」と評価が変更された。

・今回の評価結果（案）においては、暫定評価で指摘された3項目全てが改善し、「不十分」または「期待される水準を下回る」という評価がなくなった。

### 2. 短期借入を想定した銀行との契約締結について

山本学長から、短期借入が必要となった場合を想定し、銀行との契約を締結することについて、報告がなされた。

内容についての説明は、報告資料2に基づき、事務局（財務課長）から、説明がなされた。

### 3. 「遺贈による寄附制度」の創設について

山本学長から、新たに「遺贈による寄附制度」を創設することについて、報告がなされた。

内容についての説明は、報告資料3に基づき、事務局（財務課長）から、説明がなされた。

なお、本件に関連して、意見交換等が行われた。

#### 【意見交換の主な内容等】

・他の国立大学法人の遺贈による寄附制度の導入状況等を教えていただきたい。

- ・一橋大学，秋田大学，京都大学等で，遺贈による寄附制度が導入されているが，現在のところ，受け入れ実績は無いようである。
- ・アメリカの大学における寄附金の受入実績報告では，金額が大きいため，遺贈による寄附金が目立っている。
- ・本学としても，遺贈による寄附制度を導入することによって，教育研究振興基金の財政基盤強化に資するメリットが期待されるところである。

#### 4. 小樽商科大学学生寮管理運営規程の制定について

山本学長から，平成23年4月から入寮が開始される小樽商科大学学生寮の管理運営に関し必要な事項を定めるため，新たに「小樽商科大学学生寮管理運営規程」を定めたことについて，報告がなされた。

内容についての説明は，報告資料4に基づき，事務局（学務課長）から，説明がなされた。

なお，本件に関連して，意見交換等が行われた。

##### 【意見交換の主な内容等】

- ・学生寮の管理そのものは，24時間体制で管理会社に委託することになるが，大学側の学生寮の管理運営については，学生委員会が検討主体となる。
- ・入寮学生については，1年次生から4年次生まで均等に人数を割り振り，各学年23，24名とすることを考えている。9つユニットがあるので，それぞれユニット長が現れるであろうし，寮長も現れることになると想定している
- ・学生の入寮の選考基準や寮費の徴収等の基本的な管理については，大学が行うことにしたい。どこまで，学生の自治を認めるかについては，検討が必要である。
- ・大学に学生寮を設置することによって，寮生の大学に対する愛校心が，育まれることになると思う。大学側は，寮生が快適に学生生活を送れるよう，支援していただきたい。
- ・学生寮については，教育の場としての施設として位置付けることにしたい。
- ・大学側には，寮生と定期的に意志疎通する場を設けていただきたい。
- ・学生寮の1階から3階の男子の6ユニットについては，昔の寮の名称を付ける予定である。4階と5階の女子の4ユニットについては，名称を公募することを考えている。

#### 5. 遊休資産利用計画検討WGの設置について

山本学長から，遊休資産利用計画検討WGの設置について，報告資料5に基づき，報告がなされた。

##### 【山本学長説明要旨】

- ・本件については，報告資料5にあるとおり，第2期中期計画において，「資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置」として，「資産の運用状況を点検するとともに，資産運用計画を策定し，適正な運用管理を図る。」としており，平成22年度年度計画では，「遊休資産について，ワーキングを立ち上げ，売却・転用を含め，利用のありかたについて検討する。」ことになっている。

・そのため、学長の下に、新たに「遊休資産利用計画検討WG」を設置して、空いている職員宿舎や稼働率の低い緑丘荘等の今後の利用の在り方について、検討することとした。

・WGのメンバーは、総務・財務担当の和田副学長を座長とし、言語センターの江口教授、事務局長、学務課長、財務課長、施設課長で構成しており、すでにWGとして検討を始めている。

・今年度中には検討結果をまとめ、本会議に報告する予定である。

## 6. 小樽商科大学創立百周年記念事業（新規事業）について

山本学長から、小樽商科大学創立百周年記念事業の新規事業について、報告資料6「2012小樽小林多喜二国際シンポジウム」に基づき、報告がなされた。

## 7. 小樽商科大学創立百周年記念募金受付状況について

山本学長から、平成22年12月末現在の小樽商科大学創立百周年記念募金受付状況について、報告資料2-1「本学の創立百周年記念募金受付状況」及び報告資料2-2「緑丘会の創立百周年記念募金受付状況」に基づき、報告がなされた。

## 8. 最近のトピックスについて

山本学長から、本学の最近の動向について、報告資料8（本学関係の新聞記事の抜粋）に基づき、報告がなされた。

### 【特に取り上げられたトピックス】

- ・ 団旗再び商大 2010（応援団）
- ・ 2011 道内カレンダー（日経新聞）7/8 創立 100 周年記念式典
- ・ 商大創立 100 周年 街で祝う記念サービス募集
- ・ 商大 1 世紀百人百話 15 名誉教授で前学長 秋山義昭さん

## 9. その他

### （1）経営協議会委員からの報告について

齊藤委員から、財団法人小樽商科大学後援会等に関する事について、報告がなされた。

### 【齊藤委員報告要旨】

・ 小樽商科大学後援会の創立百周年記念募金の受付状況については、12月末現在で8,700万円程であったが、1月25日現在で8,900万円程に増加している。今回の寄附の主な目的は、学生寮の再興であるが、寄附の応募者は昭和30年代、40年代の卒業生が多い。現在は1,760人程の寄附申込者がいるが、寄附申込者2,000人で1億円の寄附受付を目標にしたいと考えている。創立百周年を機会として、ファンドを強化することにしたい。

・ 小樽商科大学後援会は、創立50周年に設立され、今度は創立百周年の節目を迎えるにあたり、4月1日から公益法人に移行する予定である。また、社団法人緑丘会も公益法人化を目指して、申請する予定である。

なお、本件に関連して、山本学長から、大学の後援会が公益法人に移行する事例は少ないと聞いており、国立大学協会は、一般法人に移行すると聞いている旨、発言があった。

**(2) 次回会議の予定について**

山本学長から、次回の経営協議会については、3月17日（木）14時から開催する予定である旨、説明があった。

以 上